

社会科学研究所 公開研究会等の記録

<2020年度>

公開研究会	
日時	2021年3月8日(月)14:00-17:00
開催形式	オンライン会議システム(Webex)
テーマ	1.「世界遺産富士山の保存管理と歴史研究」 2.「展示される災禍—メモリアル・ミュージアムとイメージ」
報告者	1.西川 広平 氏(中央大学文学部准教授) 2.横山 佐紀 氏(中央大学文学部准教授)
概要	<p>【西川】 近年、20件前後が毎年新規に登録されている世界遺産。その件数は、2021年1月末現在、日本国内の23件を含め1121件となっている。他方、世界遺産の保全については、保存と活用との両立をめくり様々な課題が生じている。本報告は、2016年1月に策定された世界遺産富士山の保全状況報告書を事例として、世界遺産の保存管理の施策に歴史研究が反映された状況について、その業務に携わった報告者自身の経験を踏まえて紹介するものだった。</p> <p>【横山】 国家間の戦争やジェノサイドなどの多くの災禍を経て、20世紀以降、世界各地に負の出来事を記念するメモリアル・ミュージアムが設立されている。これらのミュージアムでは、展示の重要なメディアとしてイメージ(写真、映像)、しかも悲惨なイメージが用いられている。本報告は、合衆国ホロコースト記念ミュージアムを取り上げ、悲惨なイメージを展示すること／見ることの可能性と課題を検討するものだった。</p>
主催	文化現象の政治的、歴史的、法的分析:学際的挑戦

中央大学・エクス=マルセイユ大学 交流40周年記念シンポジウム	
日時	2020年11月7日(土)17:00-20:50
開催形式	オンライン会議システム(Webex)
テーマ	<p>共通テーマ:「グローバリゼーションへの抵抗(les résistances à la mondialisation)」</p> <p>テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.「グローバリゼーションへの抵抗:フランス家族法を例として」 2.「過度のグローバリゼーションに抵抗する会社のガバナンス・モデルに向けて」 3.「環境保護のグローバル化におけるEUの役割:影響と抵抗の間」 4.「国際の平和と安全の分野におけるグローバリゼーションへの抵抗」 5.「法の支配の世界化へ向けて:勝負はついたか?」
報告者	<p>【祝辞】 福原 紀彦 氏(中央大学学長、法務研究科教授) 白井 宏 氏(中央大学副学長、国際センター所長、理工学部教授) 猪股 孝史 氏(中央大学法学部長、法学部教授)</p> <p>【司会】 西海 真樹 研究員(中央大学社会科学研究所長、法学部教授)</p> <p>【報告者】 1.ジャン-フィリップ・アグレスティ(AMU法学部長、法学部教授) 2.ヴィルジニ・メルシエ(AMU環境法・持続可能な開発法研究所長、法学部准教授) 3.エヴ・トゥリュイレ(AMU欧州国際研究所長、国立科学研究センター主任研究員) 4.ジャン-フランソワ・マルキ(AMU国際交流担当副学長、法学部准教授) 5.ロスタヌ・メジ(エクス政治学院長、政治学院教授)</p> <p>【コメンテーター】 力丸 祥子 研究員(中央大学法学部准教授) 伊藤 壽英 氏(中央大学日本比較法研究所長、法務研究科教授) 牛嶋 仁 研究員(中央大学法学部教授) 西海 真樹 研究員(中央大学社会科学研究所長、法学部教授) 亘理 格 氏(中央大学法学研究科委員長、法学部教授)</p> <p>【総括報告】 植野 妙実子 氏(中央大学名誉教授)</p> <p>【閉会の辞】 大貫 裕之 氏(学校法人中央大学常任理事、法務研究科教授)</p>
概要	「中央大学・エクス=マルセイユ大学 交流40周年記念シンポジウム」開催報告を参照
共催	中央大学社会科学研究所、日本比較法研究所、中央大学法学部、法学研究科